

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：野川(世田谷区部)における多自然川づくりの取組		
水系/河川名：多摩川水系 野川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：60.9km ²	整備計画流量：200m ³ /s(W=1/20)	セグメント：不明
事業：河川改修	事業開始年度：平成23年度	
目標設定：定性的	段階：D(実施・施工時)	
課題・目的(主な)：流下能力の確保、自然河岸、河畔林の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(河床)、護岸整備、管理ルールの設定		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

【背景】

東京都では、台風や集中豪雨による水害から都民の生命と財産を守るため、時間当たり50mmの降雨に対応する河道整備を進めてきた。

野川は、流域の約8割が市街化されており、降雨時には多くの雨水が流入する都市河川でもある。平成17年9月の豪雨では最下流部の世田谷区をはじめ400棟以上の家屋が浸水被害を受けている。

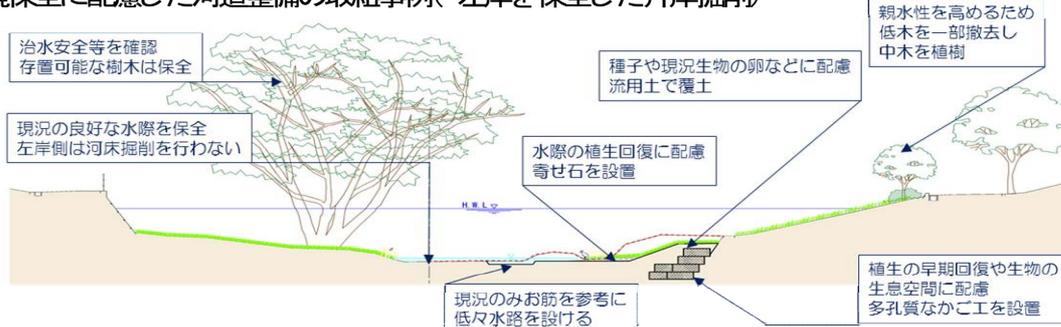
一方平常時の野川は、流れが穏やかで水深も浅く水辺に容易に近づける親水性を有していることから、散歩やジョギング、環境学習等に利用され、多くの市民の憩いの場になっている。また、野川と国分寺崖線に挟まれた空間は、多くの湧水池や公園、緑地等が存在し動植物の貴重な生息空間となっている。

【目標】

洪水対策と自然環境の保全や創出に配慮した河道整備

取り組み内容・対策例

環境保全に配慮した河道整備の取組事例(左岸を保全した片岸掘削)



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

片岸掘削区間の経過状況

約2ヶ月経過後↓

しゅん工直後↓

河道内樹木保全の検討(剪定必要範囲)

備考